第３学年　音楽科学習指導案

１　**題材名**　　せんりつのとくちょうをかんじとろう

　　教材名　　歌唱「とどけよう　このゆめを」「ふじ山」、器楽「あの雲のように」、鑑賞「メヌエット」

２　**題材の目標**

（１）音の上がり下がりやフレーズなどの旋律の特徴と曲想との関わりに気付き、それらを生かすために必要な表現の技能を身に付ける。【知識及び技能】

（２）旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりについて考え、声の強さや出し方を工夫したりフレーズを意識したりしながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。　【思考力，判断力，表現力等】

（３）旋律の特徴を生かした表現を工夫しながら、友達と協働して表現する学習に進んで取り組む。【学びに向かう力，人間性等】

３　**題材の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①旋律の特徴と曲想との関わりに気付いている。 ②旋律の特徴がよく表れるように、呼吸や発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。 ③音の上がり下がりなどの旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付き、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて演奏している。 ④音の上がり下がりなどの旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付き，呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。	①旋律と曲想との関わりについて考え、これらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を味わって聴いている。 ②旋律の特徴と曲想との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、どのような歌い方をするかについて思いや意図をもっている。 ③音の上がり下がりを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①音の上がり下がりなどの旋律の特徴が生み出す曲のよさを感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②旋律の特徴と曲想との関わりが生み出すよさや面白さへの興味・関心をもち、それらの特徴を生かした演奏の仕方の学習に進んで取り組もうとしている。

４　**題材と指導の構想（全９時間）**

（１）題材と児童

①児童について

　これまでの学習では、音の高さに気を付けて歌ったり、歌詞から様子を思い浮かべながら歌ったりした。また、全員で歌ったり手遊びをしたりすることを通して、友達と一緒に歌うことの楽しさを感じている。本題材では、今まで学習したことを生かして、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫しようとする姿を目指す。

②題材について

　本題材は、旋律の音の上がり下がりに注目する学習の始まりである。低学年から育ててきた音楽に対する感性を高めながら、音楽を特徴付ける要素の一つである旋律に着目し、その特徴を感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想を捉えたりしながら学習を進めていく。本来、この題材には鑑賞曲は含ま

れていないが、今回は次題材「曲のかんじを生かそう」の「メヌエット」も用いて学習する。鑑賞「メヌエット」から、順次進行や跳躍進行による音の動きが，旋律の表情を左右することを学習する。歌唱「とどけよう　このゆめを」では、その学習を生かし、「前半は跳躍進行があるため弾んだ感じに、後半はほとんどが順次進行であるため滑らかな感じに歌うとよい」ことに気付かせたい。器楽「あの雲のように」では、順次進行の旋律からゆったりとした３拍子の曲想を感じ取り，表現するように学習を進めたい。歌唱「ふじ山」では、歌詞の表す情景と旋律の音の上がり下がりの関係を捉えて、旋律の特徴を富士山の姿に重ね合わせて歌い上げる姿を期待したい。

（２）指導の構想

本題材は、現行の小学校学習指導要領の以下の点を受けて設定した。

第３学年及び第４学年

A　表現

（１）歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ)範唱を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能

(ｲ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない歌い方で歌う技能

(ｳ)互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能

（２）器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ　次の(ｱ)及び(ｲ)に気付くこと。

(ｱ)曲想と音楽の構造との関わり

(ｲ)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ)範奏を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能

(ｲ)音色や響きに気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ｳ)互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能

B　鑑賞

（１）鑑賞の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴くこと。

イ　曲想及びその変化と，音楽の構造との関わりについて気付くこと。

①主体的に学習を進めるための「学びの地図」の活用

従来の音楽授業では、教材曲を扱う順番やその曲を通して身に付けたい力などについて、教師の側から提示することが多かった。しかし、児童が見通しをもって主体的に学習を進めるためには、この手順では不十分であった。

そこで題材の初めに、児童と一緒に「学びの地図」を作成する。具体的には、教師が予め行った教材研究を基に、題材の中で教材曲を扱う順番やその曲を通して身に付けたい力などについて、教師と児童が相談して確認する。これによって、ゴールの姿や毎時間の授業に対する目的意識を明確にもつことができる

と考える。また、題材全体を見通し、意図的に適切なタイミングで振り返りを行うことを通して、学習内容に注目させたり、次時の学習に生かしたりすることにも役立てたい。

②「スカーフタイム」の設定

児童がスカーフを持ち，音楽に合わせてスカーフを振ったり揺らしたりする「スカーフタイム」を設ける。これによって，曲想の変化に気付かせたり曲想を言葉で表したりする際の手助けになると考える。

③旋律の上がり下がりに着目させる手立て

図形楽譜や拡大譜を提示したり、旋律の動きを手で表したりすることで、旋律の上がり下がりに着目させ，その特徴に気付かせたい。旋律の動きを表す際には、教師も一緒に手を動かすことで，自分だけでは音の高低を捉えづらい児童に視覚的な支援を行う。これにより、どの児童も音楽に合わせて手を動かす活動に参加でき，旋律の特徴に気付くことができるようにする。

５　指導計画（全９時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・） 「学びの地図」に関わる学習活動　予想される「振り返り」の記述	評価 知	評価 思	評価 主	評価規準
1	○　学びの地図の「ゴールの姿・スタートの姿」を確認し、どの教材曲から学ぶか話し合い、見通しをもつ。 ・学びの地図を作成する。 ・教材曲①「メヌエット」（鑑賞曲）を最後まで通して聴く。 「一つの曲なのに、体が揺れるところと弾むところがありました」			○	態①
2	○　「メヌエット」について、体を動かしたり、楽譜から旋律の特徴を探したりする活動を通して、旋律の特徴と曲想との関わりに気付いている。 ・前時の振り返りから、曲想の違いに着目し、身体表現をする。 ・旋律の動きを，体で表現したり楽譜から読み取ったりする。	○			知①
3	○　「メヌエット」について、楽器の音色や旋律の反復や変化が生み出す曲のよさを感じ取りながら、曲全体を味わって聴いている。 ・教材曲②「とどけよう　このゆめを」（歌唱曲）を最後まで通して聴く。 振り返りの視点　①私が感じたよかったところ　②その理由。 「①途中で感じが変わっておもしろかったです。②横に揺れそうになったり、弾んだりして楽しかったからです」 「メヌエットみたいに弾んでいるところがありました」		○		思①
4 本時	○　「とどけよう　このゆめを」の歌唱について、楽譜を見たり手を動かしたりして旋律の特徴を探す活動を通して、旋律の動きによって曲想が変化することに気付き、どう歌いたいか思いや意図をもっている。 ・前時の振り返りから、曲想の違いに着目する。 ・旋律の動きを手で表す。 ・音符をつなげたり楽譜を見たりする。		○		思②
4 本時	振り返りの視点　①歌唱のできばえ度　②その理由　③次にどのように歌いたいか。 「①８５点　②旋律の動きは表せたけれど、歌ではあまり違いを出せなかったからです。③次はもっとはっきり違いを出せるようにしたいです」				

5	○　「とどけよう　このゆめを」について、旋律の特徴がよく表れるように工夫して，歌っている。 ・前時の振り返りから、子どもの思いを基に歌い方の工夫を考える。 ・曲想に合った歌い方を工夫する。 ・歌声を録音し、学びの地図に添付する。	○			知②
6	○　「あの雲のように」について、既習曲と比較する活動を通して、よさや面白さに気付き、それらを生かした演奏の仕方の学習に進んで取り組もうとしている。 ・楽譜を見て、旋律の特徴から滑らかな感じの曲だと気付く。 ・タンギングや息の量に気を付けてリコーダーで演奏する。 振り返りの視点　①演奏のできばえ度　②その理由 「①７０点　②正しく吹けたけれど、滑らかにならなかったから」 ・演奏を録音し、学びの地図に添付する。			○	態②
7	○　「あの雲のように」について、旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら、歌詞の情景に合った演奏の仕方について、思いをもっている。 ・前時の振り返りから、子どもの思いを基に演奏の工夫を考える。 （例）前は滑らかにならなかったな。→「トゥゥーと伸ばしてみよう」 ・思うような演奏ができるよう、①一人でやる、②友達と聴き合う、③録音して聴くなどして、演奏の仕方を工夫する。		○		思③
8	○　「あの雲のように」について、旋律の音の上がり下がりを感じ取り、曲想に合った演奏の仕方で演奏している。 ・曲想と旋律の特徴に気付き、声や音を合わせて演奏する。 振り返りの視点　①演奏のできばえ度　②その理由 「①１００点　②正しく吹けたし、滑らかになるように音が切れないようにできたからです」 ・演奏を録音し、学びの地図に添付する。	○			知③
9	○　「ふじ山」について、旋律の特徴や歌詞の内容に合う表現を工夫して歌っている。 ・旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付き、情景を思い浮かべて歌う。 ・「ふじ山発表会」を開き、曲の山を生かした歌唱を聴き合う。 振り返りの視点　①歌唱のできばえ度　②その理由 「①１００点　②山みたいに音が高くなるところをちゃんと強く歌えた」 ・歌唱の様子を教師が録画し、児童の学びの地図に添付する。	○			知④
短	○　学びの地図全体を振り返り、できるようになったことを確認する。				

６　本時の計画（４時間目／全９時間）

（１）本時のねらい

「とどけよう　このゆめを」の歌唱について、楽譜を見たり手を動かしたりして旋律の特徴を探す活動を通して、旋律の動きによって曲想が変化することに気付き、どう歌いたいか思いや意図をもっている。

（２）本時の構想

①「スカーフタイム」による曲想の変化の可視化

授業の導入で、音楽に合わせてスカーフを振りながら歌う時間を設ける。実際に音楽に合わせてスカーフを振ったり、友達がスカーフをどのように振っているかを見たりすることで、前半と後半でどのように曲想が変化しているかを可視化し、その変化に気付きやすくなると考える。

②曲想の変化の根拠を確かにする手立て

まず、図形楽譜を見比べることで、前半と後半では旋律の動きがどのように変わるかを視覚的に気付かせる。その上で通常の楽譜も見ることで、図形楽譜になっていない部分でも、前半と後半では旋律の動きに違いがあることを視覚的に確認する。また、旋律の動きに合わせて手を動かすことで、前半と後半の旋律の動きの違いをより実感しやすくなる。これらにより、曲想の変化の根拠を確かにすることができると考える。

③児童の思いや意図を見取るための評価方法の工夫

本時は、旋律の動きに合わせて手を動かす表現とワークシートの記述を基に評価する。マスクの着用により見取ることが難しい口の動きの代わりに、手の動きを見ることで表現についての評価を行う。また、最後の振り返りでは「とどけよう　このゆめを」をどう歌いたいか、本時の学習内容（旋律の動きによって曲想が変化すること）に即して記述させる。この振り返りをすることで、本時と次時の意識をつなげる。また、手の動きと振り返りの２本立てで評価することで、身体表現が苦手な児童や文章で表現することが苦手な児童のことを、適切に評価することができると考える。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応 「学びの地図」に関わる学習活動　予想される「振り返り」の記述	■　評価（観点／方法）・〇留意点
1　前時の振り返りから、本時の課題を設定する。 （５分）	T1　前の授業では、「メヌエット」を聴きましたね。どんなところが面白かったですか。 C1　最初は楽譜が横に揺れていて滑らかだったのに、途中から点々になって弾む感じになったところです。 C2　途中で曲の感じが変わると面白かったよ。 T2　今日学習する「とどけよう　このゆめを」も聴きましたね。この曲はどうでしたか。 C3　「メヌエット」みたいに途中で曲の感じが変わった。	〇　前時の振り返りを提示しながら、曲想の変化が曲の面白さにつながっていることを確認させる。
2　「とどけよう　このゆめを」を歌ったりスカーフを振ったりして、曲想が変わることを確かめる。 （５分）	T3　どう変わっていましたか。 C4　初めは元気な感じだった気がする。 C5　もう一度聴いてみたいな。 T4　それでは、通して聴いてみましょう。 C6　初めは元気で弾んだ感じで途中から滑らかな感じがするよ。 C7　「メヌエット」でやったみたいにスカーフを使って確かめたいな。 C8　スカーフを使うと、曲の感じが分かりやすかったよね。 T5　交代で、スカーフを使いながら歌ってみましょう。 C9　ア は元気な感じがしたから弾むように縦に振ってみたよ。 C10　イ は滑らかな感じがしたからゆっくり揺らしてみたよ。 T6　曲の感じが違うことが分かりましたね。では、歌い方はど	〇　児童を２班に分けて「スカーフタイム」を行い、互いに見る。前半と後半の

	うしましょう。 C11　曲の感じが変わるなら、歌い方も変えたいね。	スカーフの振り方の変化から、曲想の変化に気付かせる。
3　学習課題を立て、見通しをもつ。 （５分）	学習課題 ア と イ はどんなふうに変えて歌うとよいだろうか。 C12　ア は弾んだ感じで、イ は滑らかな感じで歌いたい。 C13　さっき聴いたときもそう聴こえたから、曲の感じに歌い方をそろえるといいと思う。 T7　曲の感じと歌い方をそろえるといいと思うのですね。では、どうして ア は弾んだ感じで イ は滑らかな感じがするのでしょう。 C14　どうしてそう聴こえたのかな。 C15　「メヌエット」みたいに旋律に秘密があるのかな。 C16　楽譜を見てみたいな。	○　どのように歌い方を変えたいのか、全体で確認して統一する。
4　旋律の動きを楽譜で確認する。 （５分）	T8　では、図形楽譜から旋律の秘密を探してみましょう。旋律の動きはどうなっているでしょうか。 C17　ア の方は音がジャンプしているよ。イ は階段みたいに少しずつしか旋律が動いていないね。 C18　「メヌエット」でも、動き方が激しい旋律と滑らかな旋律があったね。 T9　図形楽譜に無い部分も、楽譜で ア と イ の旋律の動きを確かめてみましょう。 C19　図形楽譜に無い部分も ア は動きが激しい旋律がある。 C20　イ は動きが小さい滑らかな旋律だよ。 C21　ア は動きが激しい旋律だから弾んだ感じで、イ は動きが小さいから滑らかな感じになっていそうだな。	○　テレビに映した図形楽譜から、ア と イ の旋律の違いを見付けさせる。 ○　楽譜を確認しながら旋律を線でつないで見せる。図形楽譜以外の部分も、旋律の動きに違いがあることを確認させる。
5　手の動きで旋律の動きを確かめ、歌い方を決める。 （５分）	T10　ア の旋律の動きに合わせて手を動かしながら歌ってみましょう。 T11　ア の旋律の動きはどうでしたか。 C22　ア は旋律の動きがすごく大きかった。 C23　こんなに音が上がったり下がったりしているから、弾む感じになるんだね。 T12　イ も手を動かしながら歌って確かめてみよう。 C24　やっぱり ア と イ では、旋律の動き方が違うよ。 C25　イ は少しずつしか旋律の動きがなかったから滑らかな感じになるんだ。	○　教師と一緒に手を動かすことで、音の高低を捉えづらい児童も活動に参加できるようにする。 ○　ア は旋律の動きが大きいから弾むように、イ は旋律の動きが小さいから滑らかに歌うことを押さえる。
6　まとめをする。 （５分）	T13　では、旋律の動きから、ア と イ はどんなふうに変えて歌うとよいでしょうか。 C26　ア は旋律の動きが激しいから弾むように歌うといいよ。 C27　イ は旋律の動きが小さいから滑らかに歌うといいよ。	

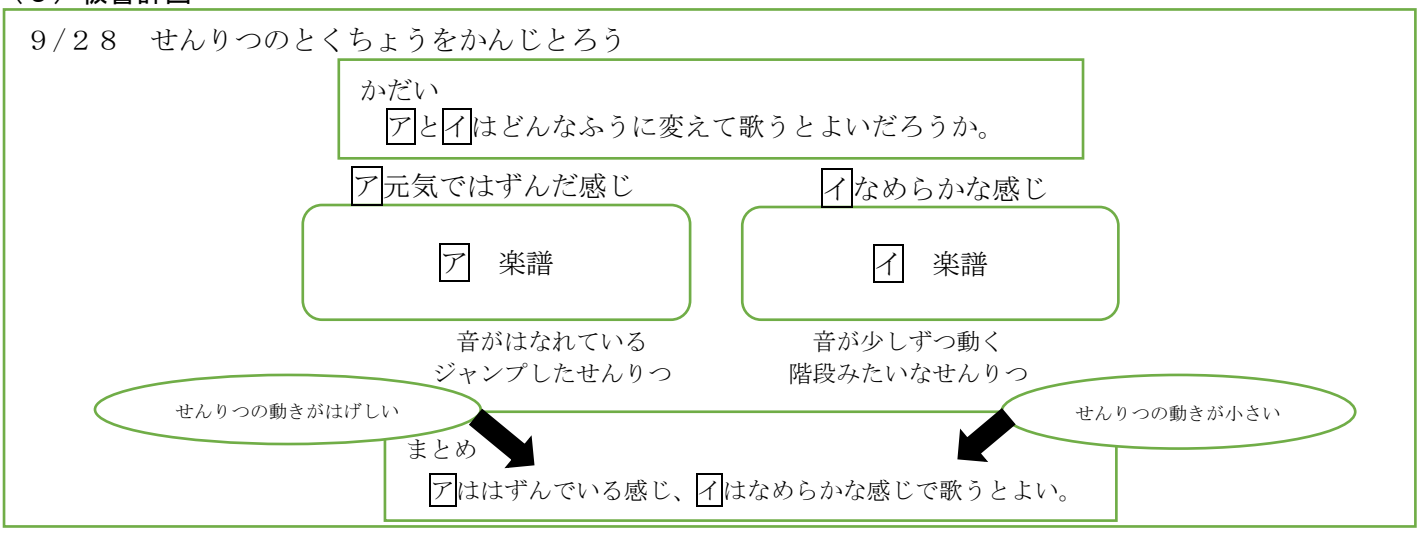
	まとめ ア は せんりつの動きがはげしいから はずんでいる感じ、 イ は せんりつの動きが小さいから なめらかな感じで歌うとよい。	
7　学習したことを生かして歌う。 （５分）	T14　アとイの旋律の動きの変化が分かるように、手の動きも付けて最後まで通して歌ってみましょう。 C28　ア は旋律の動きが激しいことを意識して歌おう。 C29　イ を滑らかに歌えたよ。	○　手を動かしながら、号車ごとに順番に歌わせる。 ○　スカーフは使わせない。 ■　手の動きで、前半と後半の違いを明確に表している。
8　振り返りをして、学びの地図に学習の軌跡を残す。 （１０分）	T15　今日学習したことを生かして振り返りをしましょう。書き終わったら、学びの地図に貼り付けましょう。 C30　８０点。イは上手にできたけれど、アの弾んだ感じが出せなかったからです。次は、もっとアの旋律の動きを意識して上手に歌いたいです。 C31　８５点。旋律の動きは表せたけれど、歌ではあまり違いを出せなかったからです。次はもっとはっきり違いを出せるようにしたいです。	○　①歌唱のできばえ度　②その理由　③次にどのように歌いたいかについて振り返らせる。 ■　本時の学習内容に即して、どう歌いたいかについて記述している。

（４）本時の評価

①手の動きで、前半と後半の違いを明確に表す。②振り返りで、歌い方について望ましい記述をする。

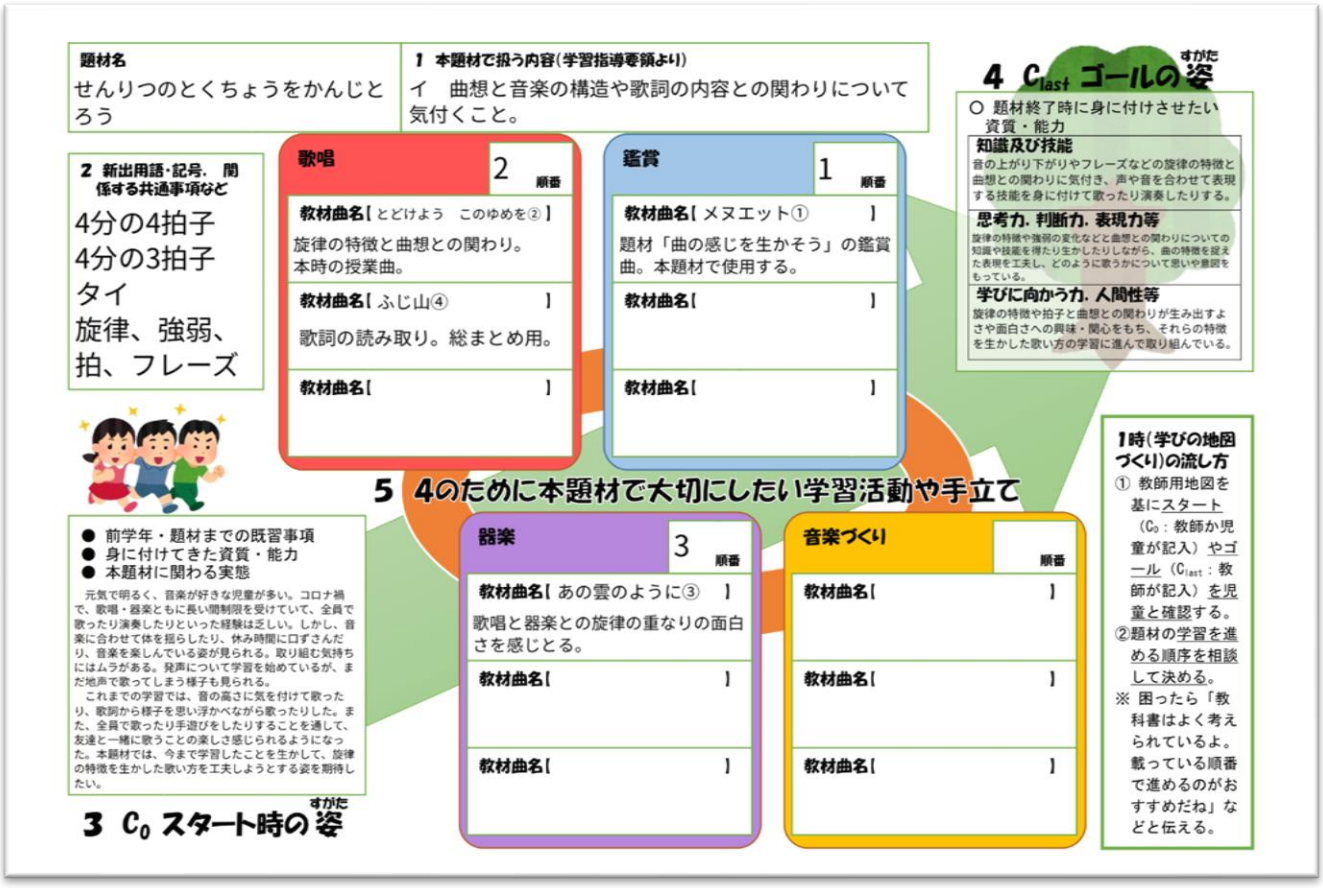
Ａ：①と②の両方ができる。　Ｂ：①と②のどちらかができる。

（５）板書計画

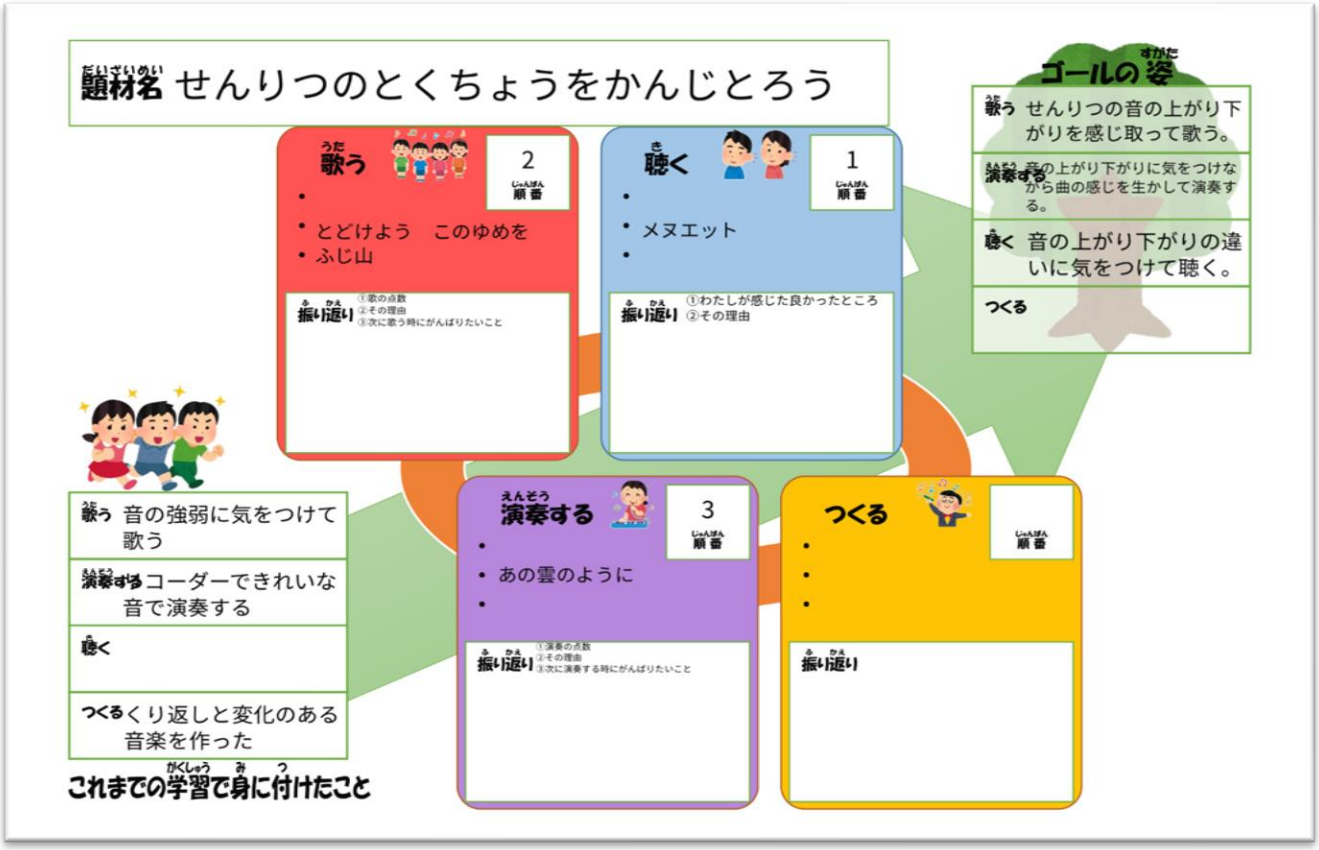


（６）学びの地図（R4 市小研音楽部作成）

①教師用



②児童用



7　参考文献・資料

・小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　音楽編　（東洋館出版社）